

漫湖水鳥・湿地センターへ

ラムサール条約とは

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。

1971年イランのラムサールという町で採択されたので「ラムサール条約」と呼ばれています。

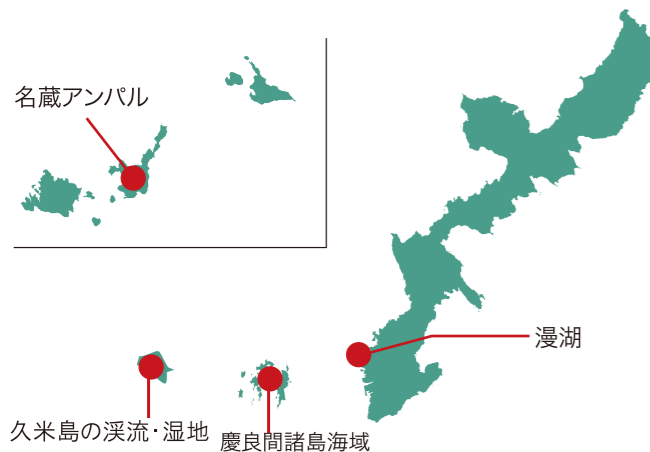
ラムサール条約は、単に「水鳥の保護」のみを目的としたものではなく、「総合的な湿地保全」のための条約であり「ワイズユース(賢明な利用)」を義務づけていることが特徴です。

つまりラムサール条約とは、「人と生き物が水辺で生き生きと暮らす」。そんな当たり前の幸せのための国際条約です。

県内ラムサール条約登録湿地

漫湖は、全国的にも有名なシギ・チドリ類の重要な渡来地として、また、多くの水鳥等の生息地として重要であるという理由から、1999(平成11)年5月に全国で11番目(沖縄県では最初)のラムサール条約の登録湿地に登録されました。

沖縄県内には、漫湖をはじめとして、2012(平成24)年3月現在4箇所のラムサール条約登録湿地が登録されています。



那覇バスターミナルより車で7分
那覇空港より車で15分
奥武山公園駅より徒歩15分
壺川駅より徒歩25分

ラムサール条約登録湿地

漫湖

Manko Waterbird and Wetland Center

水鳥・湿地センター



よろこそ漫湖へ！そして

漫湖とは



1945年 米軍撮影

2009年 撮影

かつての漫湖は、あたかも湖のように満々と水をたたえていました。琉球王朝時代には「大湖(たいこ)」と呼ばれていましたが、1600年代半ばに漫湖を訪れた中国からの冊封使(使者)が「漫湖」と名づけたといわれています。その雄大な風景は、黒船で有名なペリー提督や中国からの使者達から絶賛されたといわれています。

1950年代半ば頃の漫湖は、子どもたちの遊び場でもあり、漁業の場でもありました。1960年代以降に埋立などにより干潟化が急激に進み、現在の姿になりました。ペリー達が絶賛した風景は見られなくなりましたが、干潮時には最大47ヘクタールにもおよぶ広大な泥質干潟が出現します。

干潟やマングローブ林の中を注意深く見てみると、驚くほどたくさんの生き物たちがいます。鳥たちは、干潟の稚魚やカニ、ゴカイなどを食べたりしています。食糧となる稚魚や底生生物が豊富な漫湖は、水鳥にとって重要な飛来地で、渡りの中継地となっています。アオサギやダイサギなどの大型のサギ類やムナグロ、キアシシギ、アオアシシギなどのシギ・チドリ類を中心に、クロツラヘラサギやズグロカモメなどの希少な鳥も渡ってきます。

漫湖水鳥・湿地センター

〒901-0241 沖縄県豊見城市字豊見城982
TEL (098) 840-5121 FAX (098) 840-5118
ホームページ: http://www.geocities.jp/manko_mizudori/

- 開館時間: 午前9時～午後5時 ●入館料: 無料
- 休館日: 毎週月曜日(休日の場合は翌日)・慰霊の日(6/23)・年末年始(12/29～1/3)
- ※団体利用の場合は事前にお問い合わせの上、お申込み下さい。
- ※幼児のみの入館はお断りしております。

漫湖は水鳥や生き物たちの都会のオアシス!!

漫湖水鳥・湿地センターでその魅力にふれてみませんか!?

漫湖水鳥・湿地センターは
「水鳥と湿地と人をつなぐ場所」

漫湖水鳥・湿地センターは、「水鳥と湿地と人をつなぐ場所」として2003(平成15)年5月に開館しました。展示や自然観察会等を通して、センターを訪れる方々に漫湖の自然について紹介しています。



木道

マングローブやそこに暮らす
生き物たちを観察できるベストポイント!



イトカケヘナタリ



ヤエヤマ
シオマネキ



トントシミー
(ミナミトビハゼ)



ミサゴ
9月～翌年5月



スグロカモメ
11月～翌年2月



ダイサギ
9月～翌年5月



アオサギ
9月～翌年5月



ダイシャクシギ
10月～翌年4月



クロツラヘラサギ
11月～翌年4月



ムナグロ
8月～翌年5月



アカアシシギ
9月～翌年5月



キアシシギ
7月～翌年5月

常設展示室

センターにいながら干潟の鳥たちを観察できる大型ライブ映像や生き物情報が検索できるタッチパネル、漫湖の生態系を表したジオラマなど、漫湖に関する様々な情報を提供しています。



観察展望台



望遠鏡(20倍～60倍)を常備しています。望遠鏡を覗くと、目の前に漫湖の大パノラマ風景が広がります。